

光岡寺報

2010年 8月

〒679-2323 兵庫県神崎郡
市川町甘地 384
後藤明照、由美子(惟蓮)
T&F 0790-26-0162
メール kouenji_dayo
@nifty.com
<http://kouenji-hou.com/>
通信費年間1000円

私自身は戦後生まれですが、子供の頃、父が毎朝食事の前に、自宅の小さな仏壇の前で深い祈りを捧げているのを見て育ちました。一度、父に聞いたことがあります。なぜ祈るか、と。すると父は言いました。戦場で命を失った人たちのために祈っているのだ、と。敵、味方に関係なく、戦争で亡くなったすべての人たちのために祈っているのだ、と。

村上春樹エルサレム賞受賞スピーチより



仏教徒宣言(その八十)

梅雨にはこれでもか、と言うほど雨の日が続きましたが、その梅雨が上がると連日、体温を超えるような猛暑日が続き、夕立の一つでも来ればとの願いも空しく、暑いお盆を迎えようとしています。今も昔も、私たちの思いの浅さを知らしめるのが自然のはたらかみなのでしょう。

八月のこの暑さ・空の青さ・蝉の音が、過去のこの国での出来事を呼び起こします。六十五年前の・・・。六日・九日・十五日・・・を。

今年も、六日の広島に行くことが出来、様々なことを考えさせられました。その一つが、平和記念資料館の中の「放射線による被害」展示のコーナーでした。ここでは、原子爆弾と通常兵器の決定的な違いを「通常の爆弾では絶対におこらない放射線の影響によって、人体に大きな障害が加えられた」とあり、その『放射線の影響は、被爆後の急性障害だけでなく、その後長期にわたって様々な障害を引き起こし、「原爆後障害」と言われる白血病やガンなど様々な症状が、二〜三年ないし十数年の潜伏期間を経て発生し続けるなど、被爆者の健康を今もむしばんでいます。』と説明されています。又、このコーナーでは、放射能を出す放射線物質が、「黒い雨」となって降り注ぎ、致命的な被害を受けなかった人や、救援・救護という救助にあたった人にも甚大な健康被害をもたらす。という放射性物質による二次被爆による被害者の事にもふれていました。

この放射線による被害「被爆」は「被曝」に繋がっているという事でしょう。だから、「核兵器」という軍事面での廃絶を望むのはもちろんの事ですが、「核の平和利用」とい

う美名のもと押し進められている「原子力関連施設」に対しても、「放射線物質」を出し続ける限り、考えていかなければならない事でしょう。そして、「核」を利用する事は「いのち」あるものを脅かすものであるこの事実が目覚めよと、訴えているのがこのコーナーだと強く感じました。

今、「被バク」は過去の事ではなく現在進行形として私たちに突きつけられている課題です。それは、劣化ウラン弾による被爆や原発従事者や原子力関連施設周辺の人たちの被曝が世界中で今現に起こっているからです。そして、たくさんの人が放射性物質に苦しめられ、不安な日々を過ごさざるを得ない状況に置かれています。

私たちは、このようなヒバクシャを生み出し続けているという事実を容認してしまい、しかも彼らの苦しみ・悲しみ・痛みを、自分とは関係無いと思っています。こういうあり方をしていて私に対して、映画監督の鎌仲ひとみさんは「あなたは、コンセントの先に何が見えますか？」と。問いかけられます。私たちが日々当たり前のように使っているテレビ・冷蔵庫・クーラー・洗濯機・電灯・・・等の電化製品のコンセントの先に在るのがヒバクを余儀なくされてしまった彼・彼女たちだと。

私が今、使っている電気の中にたくさんのヒバクシャがいる。このような繋がりの中の一人として私が生きているという事です。平和資料館の中の全てのヒバクシャが私に訴えて来ます。自分の相（すがた）は、自分では見えない。その見えないう事をいいことにして、そこにあぐらをかかないで・・・と。

南無阿弥陀仏

釈明照

八月一日

光円寺推進委員

&ゼロから知る真宗講座受講者
ご苦労さん会

二〇一〇年
光円寺の熱い夏

草のように
朋なる会



草明会誕生